

2024年12月期 中間決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月30日

上場会社名 琉球アスティーダスポーツクラブ株式会社 上場取引所 東
コード番号 7364 URL <https://ryukyuasteeda.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役会長 兼 社長 (氏名) 早川 周作
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO 管理本部長 (氏名) 田野口 浩太 (TEL) 098(851)8701
中間発行者情報提出予定日 2024年9月30日 配当支払開始予定日 —
中間決算補足説明資料作成の有無 : 無
中間決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期中間期の連結業績（2024年1月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績

(%表示は、対前年同期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期中間期	266	1.9	△32	-	△33	-	△35	-
2023年12月期中間期	261	15.1	△50	-	△51	-	△53	-

(注) 中間包括利益 2024年12月期中間期 △35百万円 (-%) 2023年12月期中間期 △53百万円 (-%)

	1株当たり	潜在株式調整後
	中間純利益	1株当たり中間純利益
2024年12月期中間期	円 銭 △21.80	円 銭 -
2023年12月期中間期	円 銭 △32.90	円 銭 -

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
2024年12月期中間期	百万円 182	百万円 △273	% △149.6	円 銭 △169.06
2023年12月期	286	△238	△83.3	△147.26

(参考) 自己資本 2024年12月期中間期 △273百万円 2023年12月期 △238百万円

2. 配当の状況

	年間配当金		
	中間期末	期末	合計
2023年12月期	円 銭 0.00	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2024年12月期	0.00		
2024年12月期(予想)		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	722	24.6	26	-	23	-	19	-	12.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間連結会計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年12月期中間期	1,619,700株	2023年12月期	1,619,700株
2024年12月期中間期	-株	2023年12月期	-株
2024年12月期中間期	1,619,700株	2023年12月期中間期	1,619,700株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※中間決算短信は公認会計士又は監査法人の中間監査の対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.2「1.当中間決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当中間決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

（1）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、円安の影響などによる原材料・エネルギー価格の上昇を受け、不透明な状況が続きました。一方で、行動制限の撤廃による人流の回復・経済活動の正常化や雇用・所得環境が改善傾向にありました。

飲食業界全体もこのような経済環境を反映し、訪日外国人が増加の一方、原価、人件費等の経費が増加するなど、依然として厳しい外部環境に置かれている状況であります。

当社グループはこのような環境下においても、「夢への道を拓き、明日を照らす光となる。」というミッションのもと、「沖縄から世界へ」を合言葉に各事業を展開してまいりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（スポーツ関連事業）

スポーツ関連事業におきましては、Tリーグ2023-2024シーズンにおいて、琉球アスティーダは惜しくも優勝を果たすことが出来ず、シーズン2位となりました。新規スポンサーの獲得が鈍化しており、売上高は88,871千円（前年同期比△43.1%）、セグメント損失は25,274千円（前年同期はセグメント利益18,633千円）となりました。

（飲食事業）

飲食事業におきましては、直営店が5店舗、フランチャイズ4店舗の営業により、売上高は89,408千円（前年同期比△12.5%）、セグメント損失は8,507千円（前年同期はセグメント利益416千円）となりました。

（アスティーダサロン事業）

2023年5月より運営を開始しました、会員制経営者コミュニティサロン「アスティーダサロン」事業におきましては、2024年6月末時点で会員数301社となりました。以上の結果、売上高は87,973千円（前年同期は売上高2,979千円）、セグメント利益は54,627千円（前年同期はセグメント利益2,553千円）となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は266,253千円（前年同期比+1.9%）、営業損失は32,390千円（前年同期は営業損失50,490千円）、経常損失は33,657千円（前年同期は経常損失51,303千円）、親会社株主に帰属する中間純損失は35,315千円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失53,288千円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（ア）資産

当中間連結会計期間末における流動資産は158,975千円となり、前連結会計年度末に比べ101,610千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が28,287千円、売掛金及び契約資産が64,899千円減少したことによるものであります。固定資産は24,022千円となり、前連結会計年度末に比べ1,550千円減少いたしました。この結果、総資産は、182,997千円となり、前連結会計年度末に比べ103,160千円減少いたしました。

（イ）負債

当中間連結会計期間末における流動負債は302,140千円となり、前連結会計年度末に比べ53,169千円減少いたしました。これは主に契約負債が40,150千円増加した一方で、買掛金が40,336千円、未払金が49,015千円減少したことによるものであります。固定負債は154,285千円となり、前連結会計年度末に比べ14,676千円減少いたしました。これは、長期借入金が14,676千円減少したことによるものであります。この結果、負債合計は、456,425千円となり、前連結会計年度末に比べ67,845千円減少いたしました。

（ウ）純資産

当中間連結会計期間末における純資産は273,427千円の債務超過となりました。この結果、自己資本比率は△149.6%（前連結会計年度末は△83.3%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、国際情勢不安や米国をはじめとする物価変動や各国の中央銀行によ

る政策金利の引き上げの懸念等によりわが国の経済の先行きについては依然として不透明な状況にあります。

このような環境の中、スポーツ関連事業におきましては、2024年8月に開幕したTリーグ2024-2025シーズンにおいて、琉球アスティーダは王座奪還を果たすべくチームは始動しております。また、経営者の悩みを解決し、参加メンバーの事業成長を支援する会員制経営者コミュニティ、アスティーダサロンの会員も順調に推移しており、2024年12月に開催するアスティーダエグゼクティブサロンにおいても、前年度以上の集客を見込んでおります。

また、飲食事業におきましては、経済状況の緩やかな回復傾向の現状を捉え、客数増加による売上の増加を果たすべく、店舗 QSC の改善による店舗運営レベルの更なる向上、新ブランド・特撰メニューの導入、季節に応じたキャンペーン企画を実施することで集客を図ってまいります。

以上のような取り組みを推進するとともに、わが国の経済活動が正常化することで、業績は改善に向かうものと考えております。

（4）継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、2021年12月期から営業損失を計上しており、当中間連結会計期間においても営業損失32,390千円、経常損失33,657千円、親会社株主に帰属する中間純損失35,315千円を計上し、営業キャッシュ・フローは13,611千円の支出となりました。その結果、当中間連結会計期間末において273,427千円の債務超過となりました。これにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

今後の施策等につきましては、「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（4）中間連結財務諸表に関する注記事項（継続企業の前提に関する注記）」に記載しております。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	103,424	75,137
売掛金及び契約資産	94,206	29,306
棚卸資産	1,877	1,427
未収入金	27,537	64
前払費用	37,066	55,806
その他	1,571	579
貸倒引当金	△5,098	△3,348
流動資産合計	260,585	158,975
固定資産		
有形固定資産	1,044	1,232
投資その他の資産		
投資有価証券	10,023	10,023
長期前払費用	8,103	6,364
その他	14,490	16,722
貸倒引当金	△8,089	△10,321
投資その他の資産合計	24,528	22,789
固定資産合計	25,572	24,022
資産合計	286,158	182,997

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	72,992	32,655
短期借入金	30,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	29,352	29,352
1年内償還予定の社債	3,000	3,000
未払金	81,913	32,897
未払法人税等	2,461	1,637
契約負債	114,227	154,377
その他	21,362	18,220
流動負債合計	355,309	302,140
固定負債		
長期借入金	168,961	154,285
固定負債合計	168,961	154,285
負債合計	524,270	456,425
純資産の部		
株主資本		
資本金	175,490	175,490
資本剰余金	136,547	136,547
利益剰余金	△550,549	△585,864
株主資本合計	△238,512	△273,827
新株予約権	400	400
純資産合計	△238,112	△273,427
負債純資産合計	286,158	182,997

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

① 中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
売上高	261,324	266,253
売上原価	144,594	124,729
売上総利益	116,730	141,524
販売費及び一般管理費	167,220	173,914
営業損失(△)	△50,490	△32,390
営業外収益		
受取利息	300	0
利子補給金	319	175
その他	824	426
営業外収益合計	1,444	602
営業外費用		
支払利息	1,780	1,829
その他	476	39
営業外費用合計	2,257	1,868
経常損失(△)	△51,303	△33,657
特別損失		
固定資産売却損	287	-
減損損失	303	-
特別損失合計	590	-
税金等調整前中間純損失(△)	△51,893	△33,657
法人税、住民税及び事業税	1,696	1,658
法人税等合計	1,696	1,658
中間純損失(△)	△53,590	△35,315
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△302	-
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△53,288	△35,315

②中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
中間純損失 (△)	△53,590	△35,315
中間包括利益	△53,590	△35,315
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△53,288	△35,315
非支配株主に係る中間包括利益	△302	-

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失(△)	△51,893	△33,657
減価償却費	51	161
減損損失	303	-
固定資産売却損	287	-
長期前払費用償却額	185	1,738
貸倒引当金の増減額(△は減少)	3,268	480
受取利息及び受取配当金	△0	△0
有価証券利息	△300	-
支払利息	1,780	1,829
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	27,976	62,668
棚卸資産の増減額(△は増加)	2,152	450
前払費用の増減額(△は増加)	190	△18,740
仕入債務の増減額(△は減少)	△30,295	△40,336
未払金の増減額(△は減少)	△18,449	△49,365
契約負債の増減額(△は減少)	12,156	40,150
未払消費税等の増減額(△は減少)	3,144	△1,826
その他	△4,092	26,759
小計	△53,535	△9,687
利息及び配当金の受取額	400	0
利息の支払額	△1,435	△1,440
法人税等の支払額	△2,691	△2,483
営業活動によるキャッシュ・フロー	△57,261	△13,611
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,942	-
有形固定資産の売却による収入	870	-
有価証券の償還による収入	5,000	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	928	-
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△12,776	△14,676
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,776	△14,676
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△69,109	△28,287
現金及び現金同等物の期首残高	187,951	103,424
現金及び現金同等物の中間期末残高	118,842	75,137

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

当社グループは、前連結会計年度に営業損失 50,490 千円、経常損失 51,303 千円、親会社株主に帰属する中間純損失 53,288 千円を計上し、営業キャッシュ・フローは 57,261 千円の支出となりました。当中間連結会計期間においても営業損失 32,390 千円、経常損失 33,657 千円、親会社株主に帰属する中間純損失 35,315 千円を計上し、営業キャッシュ・フローは 13,611 千円の支出となりました。その結果、当中間連結会計期間末において 273,427 千円の債務超過となりました。これにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、2023年5月より、経営者の悩みを解決し、参加メンバーの事業成長を支援する会員制経営者コミュニティ、アスティーダサロンの運営を行っておりますが、これらサロンの拡大と、琉球アスティーダ、九州アスティーダスポンサーの価値提供の相乗効果を図ることで、営業損益及び営業キャッシュ・フローの改善を図ってまいります。

また、資本増強を図るために、第三者割当増資の実施を検討するとともに、必要に応じて借入を行うことにより、運転資金の安定的確保を図ってまいります。

以上の対応策を実施することにより、事業面及び財務面での安定を図り、当該状況の解消及び改善に努めてまいります。しかしながら、上記の対応策等は実施途上であること、特にアスティーダサロンの運営においては将来の売上見込についての予測を含んでおり、現時点においては継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、中間連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を中間連結財務諸表には反映しておりません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

当社グループの報告セグメントは「スポーツ関連事業」及び「飲食事業」に加え、前連結会計年度より運営を開始した「アスティーダサロン事業」を加えた3つを報告セグメントとしております。

なお、前中間連結会計期間の報告セグメントについても変更後の区分で記載しております。

前中間連結会計期間（自 2023年1月1日 至 2023年6月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	中間連結損 益計算書計 上額 (注) 3
	スポーツ 関連事業	飲食事業	アスティー ダサロ ン事業	計			
売上高							
一時点で移転される財 又はサービス	48,996	98,392	-	147,389	-	-	147,389
一定の期間にわたり移 転される財又はサービ ス	107,185	3,770	2,979	113,935	-	-	113,935
顧客との契約から生 じる収益	156,182	102,162	2,979	261,324	-	-	261,324
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	156,182	102,162	2,979	261,324	-	-	261,324
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	156,182	102,162	2,979	261,324	-	-	261,324
セグメント利益又は損 失(△)	18,633	416	2,553	21,603	△773	△71,320	△50,490

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グルー

プが行っているマーケティング事業及びアスリートマネジメント事業を含んでおります。

2. セグメント損失の調整額△71,320千円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失（△）は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当中間連結会計期間（自 2024年1月1日 至 2024年6月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他	調整額 (注) 1	中間連結損 益計算書計 上額 (注) 2
	スポーツ 関連事業	飲食事業	アスティー ダサロン 事業	計			
売上高							
一時点で移転される財 又はサービス	12,954	88,708	1,223	102,885	-	-	102,885
一定の期間にわたり移 転される財又はサービ ス	75,917	700	86,749	163,367	-	-	163,367
顧客との契約から生 じる収益	88,871	89,408	87,973	266,253	-	-	266,253
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	88,871	89,408	87,973	266,253	-	-	266,253
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	88,871	89,408	87,973	266,253	-	-	266,253
セグメント利益又は損 失（△）	△25,274	△8,507	54,627	20,845	-	△53,235	△32,390

(注) 1. セグメント損失の調整額△53,235千円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失（△）は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。